

令和7年度第2回学校運営協議会会議録

I 活動実績

会場 開催日時	出席者
真菅北小学校 会議室 12月4日(木) 13時30分～14時50分	本塚芳男 赤堀剛彦 森島秀昭 田中佑美子 中井賢二 森本九永子 甲元美恵子 松本文美子 合計 8 名 市教委(山林信仁 山本晃)

議題及び主な意見
<p>案件①あいさつ 会長より</p>
<p>案件②学校運営に関する協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「全国学力学習調査」の結果データに基づいた児童の実態や取り組みについて報告。</li> <li>・「学校評価一覧」に基づき、学校の重点的な取り組みについての説明。</li> <li>・2学期の児童の様子について</li> </ul>
<p>案件③熟議「人と人とのつながり～あいさつを通して大人も子どもも一緒に地域でつながる～」 児童のあいさつの実態についてそれぞれの立場から見えてくること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会での綱引きの姿、団結してしっかり声を出していた。声を出す体験は大切。仲のよい子どもたちがつながっていることがチームとしてのまとまりを見せている。4月からの学級・学年経営の成果。ふだんの生活の中でより強く確かなものに。</li> <li>・あいさつや話をしてくる子が増えている。</li> <li>・あいさつができていない部団、できていない部団、差ができてきている。</li> <li>・「あいさつをしなければ」ということは、みんなわかっている。口元を見ていると、声は出ていなくても気持ちが伝わってくる子もいる。あいさつは言葉を伝えるだけではない。「今日も元気に行っておいで」と応援する気持ち、言葉の裏側にあるものを伝えたい。そしてそれを受け取ってほしい。</li> <li>・集会の合唱で「こんなに声が出るんだ」と驚いた。子どもは自分たちのもっている力をみんなの中で発揮することを繰り返しながら成長している。学校っていいなと感じた。</li> <li>・そもそも地域に子どもがいない。地域の中で世代を超えて交流できるようクリスマス会やマルシェなどイベントを行っている。交流の積み重ねが大切だと考える。</li> <li>・100点のあいさつでなくてもいい。軽い声掛けなど子どもの気持ちを楽しく引き出したい。子どものハードルを下げることも大切ではないか。</li> <li>・あいさつは、どれだけしてもマイナスにならない。子どもの頃、あいさつは自分も相手も幸せにする魔法の言葉と教えてもらい、そんな気持ちであいさつをしている。「いってらっしゃい」「いってきます」すればするほど心の中にポイントが貯まると思っている。</li> </ul>

・花が咲くまでの過程が大切。勉強の点数や評価にとられない人としての基本を培うことが大切。郷土に自信と誇りを持つことも自尊感情を育てる根っこの部分になる。

・すぐに変わるものではないが、根気よく続けていく。

案件④その他協議事項

・校区内危険箇所の把握について → PTAと学校で把握

・クリーンキャンペーンのもち方について → 次回検討